



絵 天童ひまわり園
荒木さやか
田中 愛
題字 守谷 俊雄

一般社団法人
山形県手をつなぐ育成会

編集・発行 〒990-0021 山形市小白川町二丁目3-31 山形県総合社会福祉センター内
TEL(023)623-6572 FAX(023)623-6571 E-mail:y-ikuseikai@coda.ocn.ne.jp 発行責任者 守谷 俊雄
ホームページ <http://yamagata-ikuseikai.net/> ブログURL <http://blog.goo.ne.jp/y-ikuseikai>

日差しが強い秋空の下、第三十回目を数える「山形県知的しょうがい者レクリエーション大会」が四十二団体千五百人の参加者を得て、山形県総合運動公園サブグラウンド（天童市山王）を会場に行われました。

選手宣誓は栄光園（米沢市）の上野勇さんと水谷朋美さんが元気はつらつ堂々と行いました。



かごめがけて紅白まり入れ

今年度の応援優秀賞は、「いちよりの家」（南陽市）と「たんぽぽ」（川西町）が獲得しました。この二団体には賞状と楯が贈られました。

スポーツに親しみ、互いの交流に寄与するものとして有意義な大会になりました。

自分にあつた種目えらんで

トラック競技では二百メートル走、五十メートル走、百メートル走、最後に団体対抗の四百メートル走の各種目で力いっぱい走りました。また、フィールド競技では、パン食い競争、風船割り競争、玉入れ、綱引きと熱戦を繰り広げました。それぞれが自分にあつた種目に出場して参加者全員にメダル（金・銀・銅・敢闘賞）が授与されました。

応援合戦も団体毎、趣向を凝らしたものでした。

秋晴れスポーツ日和
かいっぱい
「走つた、投げた、応援した」
9月7日 山形県知的しょうがい者レクリエーション大会開催

松崎伸一氏（全日本をつなぐ育成会 東日本大震災対策本部構成員） 講演

「育成会と被災地支援の状況」 被災地における支援内容とニーズのミスマッチ



松崎伸一氏による研修会

被災地支援にかかる研修会

五月十九日午後、平成二十三年度第一回山形県手をつなぐ育成会支部会長・事務担当者等研修会を、山形県総合社会福祉センターで開催しました。

講師は、松崎 伸一氏（全日本育成会事業所協議会運営委員・東京都

知的障害者育成会理事・NPO法人三鷹はなの会ワークセンターゆうゆう舎施設長）をお呼びしての講演です。

演題は「育成会と被災地支援の状況」。東京都育成会、全日本育成会の大震災対策本部におられる松崎伸一氏より、東日本大震災の被災地の状況をつぶさにお聞きすることができました。

被災支援の難しさ

現地のニーズと対策本部の支援のあり方には、ミスマッチも生じていてその調整が難しい。善意が相手にとっては迷惑となりかねない。この調整が口で言うほど簡単な話ではありません。東京都から毎週四人ずつ

交替で現地に派遣しても、現地のニーズにきちっとこたえられるほどの支援がなされていません。ニーズそのものが何であるか見えません。単なる支援物資を運ぶとか、がれきを片づけるだけではないのです。育成会組織としての独自の支援が十分なされるまでいっていません。

突発的災害のとまどい

その根底には、互いが慣れてないことがあります。突発的な自然災害の中でみんなが戸惑っているからです。特に、被災者、被災障がい者にとって何をどうしたらいいかわからない状況の中で、お手伝いしなうかといっても、あれしてこれしてと、簡単に出ないのが当たり前です。

日常業務立て直しに精いっぱい

その中で、知的しょうがい者で、家族が亡くなって年金をどうするといったことを抱えた人がいました。その人のために支援しました。被災した施設では、日常業務を立て直す

ことに追われていて、手が回らない状況にあります。

現状は想像するほど簡単ではありません。

ニーズの変化に応ずる

支援者側が現地に行って何かしてあげますといった姿勢ではダメです。時間の経過とともに、ニーズも変わってきます。現地の要望も増えてきます。そうなると育成会側に対する支援の必要度も増えてきます。互いが顔見知りになり、気心がわかり合えると、相手も遠慮なく注文もしやすくなるのです。それには時間が必要です。

今後のあり方を問う

松崎伸一氏の現地報告は参加者にとって自分たちが被災したらどうしようかと真剣に考えるきっかけになりました。

本県育成会のあり方を問う貴重な研修会になりました。

山形県知的しょうがい者

相談員・支部会長合同研修会を開催

県障がい福祉課長 **太田宏明氏** 及び

サポートセンターゆあず所長 **二関郁子氏** 講演

6月16日～17日 東根市・東紅苑

山形県の障がい福祉施策

山形県障がい福祉課

課長 **太田宏明氏**

山形県内で療育手帳所持者は平成二十一年度七一〇四人、平成十六年度は六一九六人と五年間で千人も増えています。平成二十二年度知的障がい者（十八歳以上）の施設入所一七三八人、在宅者は五八三六人です。こうした人たちに対応するため、山形県では、「第三次山形県障がい者計画」新輝きの福祉プラン」を策定しています。その計画目標は、「障がいのある人もない人も、一人ひとりがその能力・環境に応じて主体性を発揮し、快適な生活を共に送ることができる地域社会の実現」です。

- ・障がい者の主体性
- ・の尊重
- ・地域生活への移行の促進
- ・社会のバリアフリー化の促進
- ・安心・安



太田宏明山形県障がい福祉課長の講演

- 計画の基本的視点は次の五つです。
- 1 障がい者の主体性
 - 2 地域生活への移行の促進
 - 3 社会のバリアフリー化の促進
 - 4 安心・安

- の推進
- 4 福祉施設から一般就労の移行等の推進
 - また、国の障がい者制度改革の基本的な考え方は、次の五つです。
 - 1 「権利の主体」である社会の一員
 - 2 「差別」のない社会づくり
 - 3 「社会モデル」的観点からの新たな位置づけ
 - 4 「地域生活」を可能とするための支援
 - 5 「共生社会」の実現
- 以上、県や国の考え方を整理してお聴きする貴重な機会になりました。
- 福祉の相談窓口とネットワークについて**
- サポートセンターゆあず
所長 **二関郁子氏**
- 「サポートセンターゆあず」は五つの事業所（村山障害者就業・生活支援センター、相談支援事業所ゆあず、山形県地域生活定着支援センター、ワークショップ明星園共同生活事業所、多機能型事業所まあ）をかかえています。
- たとえば、働きたいというニーズがあれば、障がい者の就労希望に関する相談を行います。
- ハローワーク専門援助部門、山形障害者職業センター、県内障害者就業・生活支援センターと協



二関郁子氏の講演

してチームで支援しています。就職を希望する障害者や在職中の障害者の抱える課題に応じて、雇用及び福祉の関係機関との連携の下、就業担当者や生活支援担当者が協力して、就業面及び生活面の一体的な支援を行っています。

最近の事例では、三十歳をすぎてもから手帳を取得した方もいます。そのおかげで、「福祉のサービスを使いたい」という希望をかなえられるようになりました。

「相談支援事業所」では、障害者や障害児の保護者などからの相談に応じ、情報提供、連絡調整を行います。障害者などの意向をくみとり、サービス利用計画を作成し、事業者などとの連絡調整を行います。「指定相談支援事業所」になっているので、障がい福祉に関する相談であれば、相談内容や障がいの種別は問わず、相談に応じます。福祉サービス利用のための各種申請手続きもお手伝いします。

相談の中には、だれのニーズで、進路を決めているのか疑問に思う事例もあります。本人のニーズをふまえて、本人にとって最適な活動のできる場を選択することが重要です。また、親亡き後のことも考え、本人らしい暮らしを実現する支援が必要です。

以上、サポートセンターが就業支援、生活支援を、きめ細かに実施していることがわかりました。困ったことがあれば、相談することで、適切なアドバイスを得ることが出来ます。私達にとって、たよりがいのある相談支援機関です。

新庄最上地区・置賜地区・庄内地区

育成会ブロック

レクリエーション教室

◆新庄最上地区手をつなぐ育成会レクリエーション教室



ストラックアウトに夢中

されました。

参加者は会員、ボランティア合わせて百五名。

真室川町井上薫町長にもご公務でお忙しい中、わざわざ会場まで来ていただき、あたたかい歓迎のお言葉を頂きました。

トロッコ列車に乗車

森林の森広場は、真室川温泉「梅里苑」に隣接し、自然豊かで広々としたとてもきれいな広場です。広場の中に国は有林から伐採したブナ材の運搬用として昭和十三年から昭和三十七年の間に運行していたトロッコ列車（平成二十年、近代化産業遺産登録）が走っています。森林の中を一周することができます。参加者の皆さんもトロッコ列車に乗り、心地よい森林の風を感じながら楽しく乗

車してきました。

軽スポーツに挑戦

連日の猛暑で外での開催が心配されましたが、そよそよと気持ちよい風が吹き、思ったよりも過ごしやすく、水分補給に気をつけながらガラッキーやスカットボール、輪投げやストラックアウト等の軽スポーツを思う存分楽しみました。参加者の中には、なかなか思うようにできず、何度も挑戦する方もいたようです。ババヘアアイスでしめ

昼食は梅里苑特製のお弁当、食後には新庄名物ババヘアアイスや手作りわたあめ等のデザートもあり、たいへんおいしく頂きました。

毎年恒例のレクリエーション教室ですが、今年も盛りだくさんの内容で、会員同士交流を深めあい、楽しい一日を過ごす事ができました。協力して下さった真室川町の関係者の皆様に心から感謝いたします。

（会長 田中俊久）



まずストレッチで準備運動

◆置賜ブロック育成会総会並びにレクリエーション教室

南陽市市民体育館で開催

七月七日 南陽市市民体育館アリーナを会場として置賜ブロック育成会総会・レクリエーション教室が行われました。置賜各地から百名を超える関係者が、十時からの総会とその後のレクリエーション教室に参加しました。

真室川町森林の森広場で開催 百五名参加

平成二十三年八月七日（日曜日）、真室川町森林の森広場を会場に開催

総会で事業内容の協議

総会では、我妻ブロック育成会会長のあいさつに続いて、来賓の塩田南陽市長、高橋南陽市社会福祉協議会会長、守谷山形県育成会理事長があいさつをされました。

その後協議に入り、平成二十二年度の事業および収支決算報告、平成二十三年度の事業計画および収支予算、役員改選が協議・承認されました。

交流ゲームに興ずる

十一時からレクリエーション教室が始まり、山形県レクリエーション協会指導員の方による交流ゲームを行いました。全員で一斉に行う集団ゲーム、二人で組んで行うゲーム、数人で行うゲーム、そしてサークルになって行うゲームなど、歓声があがったり、笑いがあつたりしながら一時間程の交流を行いました。

昼食休憩でも、仲間同士車座になり、弁当を食べながら、

なごやかな雰囲気の中、参加者同

士の交流を深めることができました。

(会長 松阪大泰)

◆庄内地区レクリエーション教室に参加して

八幡鳥海高原家族旅行村で開催

七月二十七日真夏の青空の下、庄内地区手をつなぐ育成会のレクリエーション教室が、八幡鳥海高原家族旅行村を会場に行われました。三



炎天下保護センターめざして散策

十度を超える暑さも高原の風は涼しく、爽やかな空気を一杯吸いながら教室は始まりました。散策コース「みんな汗だく」

小中学生のボランティアと一緒に猛禽類保護センターまで往復約二キロの散策コースと歩行困難な方はそば打ち体験コースに分かれての活動です。散策コースは旅行村を出発し、鳥海山荘の前を通り、一路猛禽類保護センターへ。センターでは職員から希少な猛禽類（イヌワシやクマタカ）等の説明を受け、みんな熱心に聞き入っていました。帰りは登り坂です。爽やかな風が吹いていると言ってもみんな汗だく、枝を拾って杖にしたり、路肩に咲いている小さな花を摘んだりして自然を満喫していました。

そば打ちコース「うめの、うめの」

そば打ちコースは旅行村の支配人が先生で、ボランティアも参加者も互いに協力しながら頑張つて、みんなが帰ってくるまで仕上げる事が出

来ました。太麺、細麺いろいろありましたが、自分たちで打った大盛りの蕎麦に「うめの、うめの」と言いながらべろりとたいらげられました。最後にみんな写真撮りこの日の日程は終わりました。帰りのバスでは疲れも見せず「まだ来よの、楽しいの」の声に私達も「ああ良かった」とホット胸を撫で下ろしたところでした。

十六名参加

今回の教室には育成会他に、NPO法人支援センター「なのはな畑」とサマーボランティアの小、中学生十五名も含め総勢六十名の参加を得て大会を行うことが出来ました。参加されたボランティアの方々には、障がいのある人たちに少しでも温かい手を差し伸べて頂けたら家族としてこんなに嬉しいことはありません。今後もこのような事業を続けてほしいと思います。

(会長 阿曾千一)

平成22年度会計収支報告

第1期 一般社団法人山形県手をつなぐ育成会損益計算書

平成22年4月1日より平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	実 績	摘 要	科 目	実 績	摘 要
I 収入の部			II 支出の部		
1. 会費収入	3,220,000		1. 事業費	8,723,009	
正会員会費収入	2,920,000	年会費	給料手当	2,931,950	
賛助会員会費収入	300,000		職員諸手当	719,418	賞与・通勤手当
			臨時雇賃金	10,460	知レク大会看護師報酬
2. 事業収入	798,100		福利厚生費	38,071	労働保険料
福祉大会	580,800	福祉大会参加費	旅費交通費	657,615	理事会・研修会ほか交通費
レク大会	194,800	知レク大会参加費	研修費	38,630	研修会費
相談員研修	22,500	相談員研修参加費	通信運搬費	377,784	郵送料・電話料ほか
			消耗什器備品費	131,250	プリンターほか
3. 補助金収入	3,088,000		消耗品費	208,344	事務用品ほか
ぜんち共済	220,000	会報広告料ほか	印刷製本費	398,871	コピー代・印刷代ほか
地方助成金	288,000	福祉大会助成金	会議費	114,023	打合せ会議費
サポート協会	140,000	障害者サポートセンターより	賃借料	909,510	事務所家賃・コピー機リースほか
相談員研修	130,000	相談員研修委託費	広報費	220,690	会報印刷代ほか
その他の助成金	510,000	特定求職者助成金ほか	保険料	81,378	知レク大会傷害保険
レク大会助成金	1,800,000	障害者スポーツ協会より	手数料料	35,948	振り込み手数料ほか
			諸謝金	90,000	大会謝礼金ほか
4. 負担金収入	720,000		支払負担金	499,650	大会・総会御祝金ほか
文書管理負担金	720,000	県育成会より	支払助成金	280,000	地区レク大会助成金
			委託費	106,840	クリーニング代
5. 寄付金収入	745,000		雑費	800,577	福祉大会弁当代ほか
福祉大会寄付金	745,000	福祉大会広告料	法人税及び住民税事業税	72,000	
6. 雑収入	96,213				
受取利息	3,083	預金利息			
雑収入	93,130	地域活動支援協会費ほか			
			当期支出合計	8,723,009	
当期収入合計	8,667,313		当期純利益	△ 55,696	当期収入合計 - 当期支出合計

貸借対照表

平成23年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
[流動資産]	[22,689,873]	[流動負債]	[420,482]
現金預金	22,689,873	未払金	335,980
		預り金	12,502
		未払法人税等	72,000
		負債合計	420,482
		[正味財産]	[22,269,391]
		正味財産	22,269,391
		(うち当期正味財産増減額)	22,269,391
資産合計	22,689,873	負債・正味財産合計	22,689,873

平成23年度会計収支予算案

第1期 一般社団法人山形県手をつなぐ育成会損益計算書

平成22年4月1日より平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	実 績	摘 要	科 目	実 績	摘 要
I 収入の部			II 支出の部		
1. 会費収入	3,220,000		1. 事業費	8,723,009	
正会員会費収入	2,920,000	年会費	給料手当	2,931,950	
賛助会員会費収入	300,000		職員諸手当	719,418	賞与・通勤手当
			臨時雇賃金	10,460	知レク大会看護師報酬
2. 事業収入	798,100		福利厚生費	38,071	労働保険料
福祉大会	580,800	福祉大会参加費	旅費交通費	657,615	理事会・研修会ほか交通費
レク大会	194,800	知レク大会参加費	研修費	38,630	研修会費
相談員研修	22,500	相談員研修参加費	通信運搬費	377,784	郵送料・電話料ほか
			消耗什器備品費	131,250	プリンターほか
3. 補助金収入	3,088,000		消耗品費	208,344	事務用品ほか
ぜんち共済	220,000	会報広告料ほか	印刷製本費	398,871	コピー代・印刷代ほか
地方助成金	288,000	福祉大会助成金	会議費	114,023	打合せ会議費
サポート協会	140,000	障害者サポートセンターより	賃借料	909,510	事務所家賃・コピー機リースほか
相談員研修	130,000	相談員研修委託費	広報費	220,690	会報印刷代ほか
その他の助成金	510,000	特定求職者助成金ほか	保険料	81,378	知レク大会傷害保険
レク大会助成金	1,800,000	障害者スポーツ協会より	手数料	35,948	振り込み手数料ほか
			諸謝金	90,000	大会謝礼金ほか
4. 負担金収入	720,000		支払負担金	499,650	大会・総会御祝金ほか
文書管理負担金	720,000	県育成会より	支払助成金	280,000	地区レク大会助成金
			委託費	106,840	クリーニング代
5. 寄付金収入	745,000		雑費	800,577	福祉大会弁当代ほか
福祉大会寄付金	745,000	福祉大会広告料	法人税及び住民税事業税	72,000	
6. 雑収入	96,213				
受取利息	3,083	預金利息			
雑収入	93,130	地域活動支援協会費ほか			
7. 基本財産収入	22,325,087				
基本財産収入	22,325,087	出資金			
			当期支出合計	8,723,009	
当期収入合計	30,992,400		当期収支差額	22,269,391	



待望の酒田特別支援学校が開校

県内初の複数の障がい種別（聴覚、知的）を対象とした学校

山居倉庫をモチーフに県産木を使った温かみある校舎

山形県立酒田特別支援学校

P T A 副会長 前田 英樹

進路指導時の戸惑い

酒田市に待望の特別支援学校が開校し早いもので半年になりました。振り返れば私の娘が小学校へ入学する際の進路相談の時です。「養護学



酒田特別支援学校開校式典（9月7日）「きやり保存会」祝歌

校は鶴岡になります。居住地にある

特別支援学級は近々閉鎖予定です

で入学は出来ません。」といった内

容のことを言われました。すると

ちの子は鶴岡まで通わなければいけ

ないのか？通いが困難なら僅か六歳

で寄宿舎へ入る事になるのか？鶴岡

まで夏場で三十分、冬場で一時間弱

の道のりを毎日送迎しなきゃいけない

のか？酒田に住んでいて、何で鶴

岡に行かなきゃいけないのか？そん

なことを考えると私は戸惑いと不安

でいっぱいになりました。

酒田に養護学校を

幾度とない酒田市教育委員会との話し合いのすえ結局、学区外の特別支援学級へ入学が決まり通い始めたものの、中学・高校はどうしたら良

いのか？この不安だけは拭いきれな

く考える日々が続きました。そんな

中、村山地区で養護学校設置を求め

る動きを知り、自分たちも酒田飽海

地区に住む親達で集まりました。酒

田にも養護学校が必要なんじゃない

のか？今、動かなきゃダメなんじゃ

ない？との熱い想いを持った保護者

十七名で「酒田地区に養護学校設置

を求める親の会」が発足したのです。

当初は夢と希望で意気揚々と活動し

ていましたが、当てもなくひたすら

署名をお願いするだけの毎日を過ご

し、半年が経過しました。いつしか

署名活動も停滞し嫌な思いが駆け巡

ります。

四千名超の署名

酒田には三十数年前から養護学校

設置の動きはあったとのことでした。

「学校を設置することは、非常に困

難で今まで幾つもの会が発足するも

の年数がかかるため、親達のモチ

ベーションが下がるんだ。二十年位

前に私も動いていたが無理だけよ。」

そんな言葉を聞き、やっぱり無理な

のかなあと諦めかけた時もありまし

た。そんな中、とある方にお会いし

酒田飽海地区の障がいをもつ子ども

達の現状を事細かく説明したところ、

「なんで酒田の子が鶴岡まで行かな

きゃいけないんだ？それはおかしい

だろう？」と力強い言葉を頂き、私

たちも初心を思い出し、もう一度頑

張ろうと気持ちを新たにすることが

できました。その日から親の会の動

きも活発になり、平成十九年十月に

県知事へ四千名超の署信用紙と県教

育長へ要望書を提出することができ

ました。すると県側の回答は平成二

十三年度の開校を目指すとの返答を

頂きました。そして今春、うちの娘

も小学校を無事に卒業し晴れて山形

県立酒田特別支援学校（知的障がい

教育部）に入学しました。

六十二名が在籍

酒田特別支援学校は、県内初の複

数の障がい種別（聴覚、知的）を対象とした学校として開校しました。

また山居倉庫をモチーフに県産木をふんだんに使った温かみのある校舎で聴覚障がい教育部は幼稚部から中学部まで十九名、知的障がい教育部は小学部から高等部まで四十三名、計六十二名が在籍しています。

●新しい歴史を刻む

開校したての学校ですので何もかもが新鮮です。子どもたちも初めて通う学校で戸惑いがあったと思います。また、教職員の皆さんも初めて接する子ども達に戸惑いを感じたとと思います。それを乗り越えて、校舎には元氣いっぱい生き生きと活動する子どもたちの姿が見られます。酒田特別支援学校はこれから長年に渡り素晴らしい歴史を刻んでいくことになりそうです。私達、保護者も良きサポーターとして共に歩んでいきたいと思えます。

会員減少、団体加入のすすめ、

個人会員に情報を届けたい

★運動体となって二年目

一般社団法人山形県手をつなぐ育

成会は社会福祉法人より独立して、二年目です。社会福祉法人の時には、六つの事業所をかかえ、事業費等に関して、比較的安定した運営をすることが可能でした。しかし、育成会会員の福祉向上を図る上では、事業運営を主体にしている、どうしても育成会がめざす運動がはかばかしくいかないう反省から、事業経営と育成会運動を切り離し、一般社団法人山形県手をつなぐ育成会として独立することになりました。

★会員減、収入減

そのための運営費は会員会費でまかなっています。

ただ、会員の減少に歯止めがかからないのが現状です。会員の高齢化により、退会者も毎年多数います。そのため、収入減が著しい。また、若い方々の入会がはかばかしくない。

平成二十二年度会員数は、一四七八人に対して、平成二十三年度は一〇九八人という大幅な減少です。この状況を放置すれば、組織を維持することができなくなることも早晚やってきます。危機的な状況にあることを十分踏まえ、会員一人一人が育成会運動に積極的に参加していただくことをお願いします。

★規模別団体加入を新設

その対策として、正会員を「市町村支部育成会」と「施設」を規模別団体加入として、積極的に「施設」

知的障害児者・自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度

生活サポート総合補償制度

※お申し込み・お問い合わせは・・・

山形県知的障害児者
生活サポート協会
推進担当

JIC

A I U 保険会社代理店 (株) ジェイアイシー 南東北営業所
〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル4F

TEL: 022-265-0010 FAX: 022-264-0081

E-Mail: info@jicsendai.co.jp ホームページ: http://www.jicgroup.co.jp

加入を働きかけています。まず、六月十六日付け、「平成二十三年年度会費規程検討委員会の決議内容について」の文書を関係機関に連絡しました。

現在、「団体」加入を新規に申請してくれた施設は六施設となつていきます。今後、さらに「団体」加入を推進していく必要があります。

★育成会運動の見える化

ただ、それにしても「山形県手をつなぐ育成会」がどんな運動を展開しているか、個人会員や加入団体にとって育成会の運動の中味が見える必要があります。

全日本↓山形県↓市町村支部・団体↓個人と情報をうまく流すようにする仕組みが重要です。全日本↓山形県↓市町村支部・団体までは比較的情報が流しやすくなっています。電子メール、FAX、電話等、システムができております。比較的、即座に連絡がとりやすくなっています。

★個人会員への情報提供

しかし、現在、市町村支部↓個人間が隘路となつていきます。限られた連絡方法のため、個人会員まで情報が届くのが遅れたり、情報がもたれりしている例が多くあります。一番の問題は、連絡するのに経費と手間が必要だということです。その予算と人手が足りません。

この課題解決策として、山形県↓市町村支部・団体だけでなく、山形県↓個人のルートで情報が届く仕組みを考える必要があります。

その手立ての一つとして、携帯電話の活用が考えられます。そうした通信システムをつくりあげればほとんど経費をかけずに情報を簡単に素早く送ることが可能になります。ただ、システム構築のための初期費用がかかります。そのためにも、ぜひ、会員拡大に皆様の協力をお願いします。

編集後記

◆事務局多忙

◆九月七日、山形県知的しょうがい者レクリエーション大会開催（一面参照）。千五百人参加。事前準備の事務処理は、天童ひまわり園等より全面的に協力を得ることができた。また、多くの競技役員、安全対策係、ボランティア等がいて開催にこぎつけることができた。事故なし、感謝。

◆十月十五日〜十六日、第五十一回手をつなぐ育成会東北ブロック大会・（併催）第二十三回山形県知的しょうがい者福祉大会。千人以上の参加を予定。多数の参加を。

◆「本人たちによる防災会議」で被災地訪問（七月二十八日）。二十五人参加。悲惨な状況を目の当たりにして涙。

◆編集委員【中山一昭・鈴木一成・押野イツ子 事務局Ⅱ黒木仁・古澤薫・八鍬三郎】

【広告】 この広告は商品の概要をお伝えしています。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。

ぜんちの **あんしん保険**
少額短期健康総合保険（無病型）

4つの保障で大きな安心

医療保障 権利擁護費用補償
個人賠償責任補償 死亡保障

詳しい資料のご請求は
右記までお願いします。

病気 ケガ

万が一の入院に、充実した保障で
大切なお子様をお守りします。

入院保険金
日額

付添看護や差額ベッド利用の有無を問わず1泊2日以上の入院を、初日から保障します。

10,000円
(日・夜プランの場合、1入院につき60日限度)

○募集代理店
宮城県代理店 (株)エフシーバンク
TEL 022-348-4481
〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山3-11-18

○引受保険会社
ぜんち共済株式会社
〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号
岩本町シティプラザビル5階